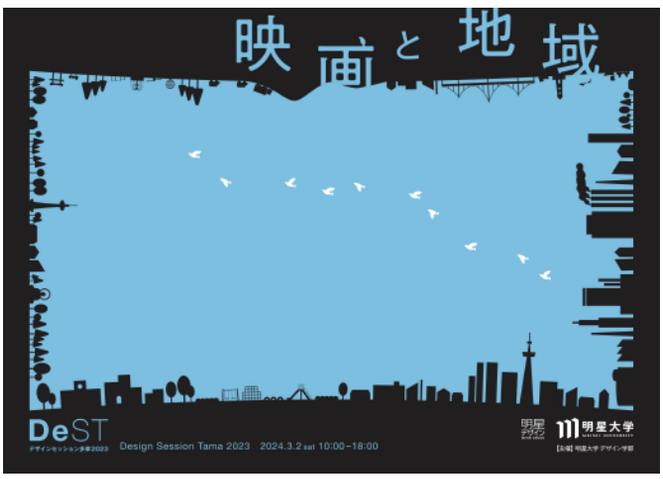
開催レポート

DeST デザインセッション多摩 2023「映画と地域」第 1 部

個性的な 30 市町村があり約 420 万人が暮らす多摩エリアで、地域の資源とデザインの力を活かしたプロジェクトを考えるデザインセッション多摩。2023 年度は「映画と地域」をテーマに地域の魅力を探りました。



[1 部　トークセッション]

講演①「映画の歴史と地域の関係」
奥村 賢（映画研究者、明星大学デザイン学部教授）
講演②「映画製作の方法と地域」
高山 隆一（東京工芸大学芸術学部映像学科教授）
講演③「地域で映画をつくる」
三好 大輔（映画監督）

奥村賢氏（映画研究者、明星大学 デザイン学部 教授）

高山隆一氏（東京工芸大学芸術学部映像学科 教授）

三好大輔氏（映画監督）

講演①

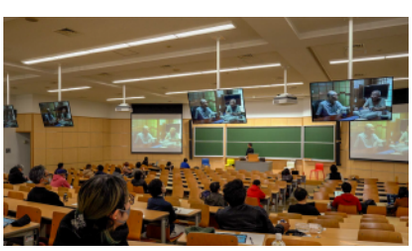
映画の研究者、教育者、映画監督という 3 人のトークゲストを迎えた第 1 部。最初の講演者は明星大学デザイン学部の奥村賢教授。映画研究者でもあり映画に関する書籍も上梓している奥村氏の講演は、日常風景を記録したリュミエール兄弟に端を発した映画史の歩みから始まりました。それぞれの時代の社会の影響を大きく受け発展した日本映画史では、全国各地をロケ地とした『喜びも悲しみも幾歳月』（1957 年松竹／監督　木下惠介）や、『男はつらいよ』（1969 年～松竹）シリーズが紹介され、制作拠点やロケ地から映画と地域を考えるという視点が提示されました。

講演②

2 人目の登壇者である高山隆一氏は、東京工芸大学芸術学部の教授であり、映画史や映画理論、映画制作を専門領域としています。映画制作を「『質』と『実』のせめぎ合い」とした高山氏は、スケジュールコントロールや効率的な制作システムの必要性など、複雑な思考を要する映画制作の実務面について講演を行いました。地域で映画を撮るにあたり重要となる、外部とのコミュニケーションや制作側の意識などについても言及され、鑑賞者として観る映画の裏側にあるリアルな制作の現場が想起されました。

講演③

映画監督である三好大輔氏からは、地域に眠る 8mm フィルムを集め住民とともにつくる「地域映画」についての講演です。1950～1970 年代にかけて一般家庭に普及した 8mm フィルムには、家族の日常や行事、当時のまちの様子が記録されています。自治体や市民団体、企業などと協働し地域住民が関わる地域映画は、制作過程から地域にたくさんのコミュニケーションを生み出し、完成後もつながりや活動が続いていきます。2008 年からすでに 15 の地域で 18 本の地域映画が完成している地域映画の意義や制作について、実際の映像も交えながら話を聞きました。



クロストーク

講演に続いて 3 人の登壇者によるクロストークです。デザイン学部 萩原修教授が進行役を務め、今回の DeST のテーマである「映画と地域」について、個人により異なる地域や情報の捉え方や、それをつなぐ映像という手段、さらにデザインの力をいかに発揮するかなど、それぞれの視点から意見を交わしました。
学生の視点が自己の内側に向く傾向にあるかという投げかけについて、人に見せる映像としての視点の置き方に言及した奥村氏。地域で映画をつくることについて高山氏は、スタジオにこもるのではなく外に出てさまざまな関わりの中で撮影するという、クリエイティブな活動として映画制作の魅力に触れました。最後に三好氏は、劇映画でもドキュメンタリーでもない「地域映画」について、地域の中にいる届けたい人をイメージし、身近な人たちに向けて気持ちを込めてつくっているとコメント。地域の表現手段として、そして人がつながる媒介としての映画の可能性が伺えるクロストークとなりました。

開催レポート

DeST デザインセッション多摩 2023「映画と地域」第 2 部

[2 部前半 ワークセッション：映画企画のプレゼン]

第 2 部前半は、多摩エリアのそれぞれの地域で活動する人がリーダーとなり考えた「地域の映画」の企画発表です。登壇したのは奥多摩町、日野市、多摩市、国分寺市、小平市、東大和市、西東京市、武蔵野市、調布市の 9 チーム。地域に縁のある人物や、その地域ならではのエピソード、エリアの特色やコミュニティの力を活かした映画の企画が、それぞれのチームから予告編映像とともに発表されました。

9 人の地域リーダーと作品名

鋤柄大気（奥多摩町）『玉堂の写生帖』／清水直（日野市）『ひのしのはなし』／横溝惇（多摩市）『NEWTOWN THEATER COLLECTIVE』／佐久間崇（国分寺市）『自転車なおしマン』／林雅一（小平市）『スズキ』／獅電（原島 祥太）（東大和市）『悪霊退散（物理）』／中村晋也（西東京市）『空の塔と西東京』／上澤進介（武蔵野市）『お父さんの挑戦』／薩川良弥（調布市）『奥深』

[2 部後半 ワークセッション：ワールドカフェ]

第 2 部後半は参加者も交えワールドカフェ形式でワークセッション。第 1 部のトークセッションや前半で行われた地域の映画企画のプレゼンを踏まえ、「映画と地域」の関係性や可能性について話し合いました。ワールドカフェでは映画企画を発表した 9 つの地域のテーブルが設けられ、参加者はテーブルを移動しながらさまざまな地域の話を聞き、映画企画や地域の取り組みについて積極的に意見交換をしていました。

ワールドカフェを終え、最後に 9 人の地域のリーダーからワールドカフェでの気付きや今後の地域での活動について共有。そして 3 人のトークセッション登壇者からも映画制作や地域でつくることへの思いが語られ、DeST2023 は幕を閉じました。